

「北海道の自衛隊見学ツアー及び茨城県出身活躍隊員の取材」



自衛隊茨城地方協力本部（本部長・栗秋一空佐）は、令和7年11月26日から27日にかけて、募集対象者及び協力者等21名を引率し、「北海道の自衛隊見学ツアー」を実施した。ツアーは2日間にわたり実施され、初日は航空自衛隊千歳基地を訪問し、第2航空団飛行群及び基地業務群、特別航空輸送隊を見学した。特に、特別航空輸送隊保有の政府専用機の見学においては、参加者全員が実際の機体の外観から内部に至るまで見学し、「テレビのニュースで見た航空機に感動した」「設備が充実していて驚いた」等、その威厳と設備の充実ぶりに終始感動した様子であった。また、パイロットや空中輸送員の隊員と直接話す機会もあり、参加者からは「かっこいい」「プロの話を聞いて、自衛隊の仕事がより身近に感じた」といった声が上がリ、航空自衛隊の任務の重要性やプロフェッショナルリズムを肌で感じていた。2日目は北部方面隊が実施する戦車射撃競技会（北海道大演習場）において、10式戦車の実弾射撃を見学した。実際の戦車射撃の迫力に、参加者からは「体に響く衝撃に驚いた」「映像とは全然違う」「こんなに命中するものなのか」と、その迫力と射撃の精度に驚嘆した様子であった。

また、茨城地本公式SNSで掲載する「北海道で勤務する茨城県出身活躍隊員」のインタビュー動画撮影を実施した。特に印象的であったのが、第7師団隷下である第7特科連隊の隊員だった。自衛隊に入隊したきっかけが「平成27年9月関東・東北豪雨」であり、地元である茨城県常総市は鬼怒川氾濫の被害を受け、自らも被災した。そこで自衛隊の活躍に感銘を受け「自衛隊に入り人助けをしたい」と強く思った事がきっかけと話していた。このことを公式SNS等で掲載し、より多くの方に見ていただきたいと思い、志高い茨城県出身隊員に出会えたことを誇りに思います。

今後自衛隊茨城地方協力本部では、自衛隊の活動への理解を深めるとともに、自衛官として働く魅力を広く発信するため、同様の体験型企画を積極的に実施していく。

